

10 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では、秋雨・台風の影響で伐採シーズンを迎えても出材が伸びず、材が極端に減少気味である。大手製材工場の集荷意欲は依然として強い。ヒノキは 4.0m 土台取りへの引き合いが強く、これが牽引役となって全般的に値を上げた。スギ材は 3.00m 柱材が高値を維持していたが、9 月に入り市況は落ち着いてきた。特に今年は大手工場への直送が増え、原木市場の流通量が減ったため、品薄を背景に価格が高騰している。

群馬県では原木の出材が低調で集荷しづらい。特にバタ角用原木(4.0m、9～13cm)が少ない。在庫は確保しているが、県内では間に合わず、県外からも集荷。大型物件や注文材が多く、相変わらず忙しいが、一般物件は例年に比べ出足が悪い。販売は順調だが、受注や見積もりは減少。在庫は羽柄材が全体的に品薄、母屋、桁等は一服感。価格は一段落して横ばい。原木価格の上昇を製品に転嫁できず収益率が悪化している。

2. 米材

9 月中旬で山火事の季節は終わり、秋の気候に移行し、伐採も通常並みに戻った。米国内港頭在庫は潤沢な水準を維持しつつ、在庫を積み上げ中である。カナダ側は 8 月に伐採が殆ど行われないうちで、通常の船積みのため、9 月には在庫が払底。現在、平常伐採に戻っているが、今年一杯はタイトな状況が続く見通しである。ウェアハウザー社の 10 月積み対日価格(推定)は IS が前月比 \$30 ダウンの \$970。SLC が \$50 ダウン。産地製材工場も高値在庫の消化を優先し、原木の購入意欲は低い。産地国内価格の下落に伴い、輸出価格も下落。米国製材品市況は大幅な価格修正が起り、昨年央の価格水準になっている。ランダムレングス紙 15 種平均価格(9/28)は \$405/M で 8 月末に比べ 10.6% の DOWN。対日価格は第 4・四半期の米マツ製品が若干の値下げで決着、SPF は第 3・四半期から \$15～\$20 の DOWN で推移している模様

8 月の原木入荷量は 243 千 m^3 、1～8 月累計で 1,835 千 m^3 (前年同期比 3.3% 増)、出荷量は 222 千 m^3 、1～8 月累計で 1,782 千 m^3 (同 1.7% 減)と昨年並み。在庫は増加し 252 千 m^3 で在庫率は 1.10 ヲ月。国内の米材製材工場は盆明け後、荷動きが鈍ったが、9 月は回復したものの、秋需と呼ぶほどではない。9 月の東京木材埠頭の入荷は 18 千 m^3 (前月比 21.3% 減)、出荷は 18 千 m^3 (同 19.0%

減)、在庫は 53 千 m^3 (同 0.7%増)。

3. 南洋材

サバ州では大手伐採業者は全面停止状態で年内は伐採が再開されない見通し。サラワク州ではサバの代替輸出が期待されたが、量的には程遠い状況。PNG、ソロモンでは中国の買いが一服し、価格は弱含みだが、日本向け価格に変化なし。インドネシアのカリマンタンの伐採は順調だが、中国・インド向け需要が依然好調。価格は安定している。工場の原木在庫は確実に増加。10月予想の原木入荷は 8 千 m^3 、出荷は 10 千 m^3 、在庫は 21 千 m^3 、製材品の入荷は 35 千 m^3 。フリー板の国内在庫はそれ程多くないが、価格は依然として下げ基調。

4. 北洋材

産地の各工場とも原木在庫、稼働状況はかなり低水準が続いている。品質面(青カビ)も深刻で日本向けに適さない原木が多い。各社工場とも契約残の消化が進んでおらず、新規の売込みも少ない。現地挽き製品はコストが売値に追いつかず、値戻ししたいシッパー側とコストの合わない日本側との綱引き状態。アカマツ原板の本格交渉は冬山開始以降となる。国内挽き製品は品不足ながら、コストに見合う値上げが通らない。中国-米国の関税問題で中国からの引合いが減少(特にカラマツ原木)。また中国やウズベキスタンに活発に売っていたアカマツ(30×40)低級グレード製品の対日売込みが増えている。10月予想の原木入荷は 12 千 m^3 、出荷 10 千 m^3 、在庫 19 千 m^3 、製品入荷(東京+川崎)は 15 千 m^3 、出荷 18 千 m^3 、在庫 35 千 m^3 。

5. 合板

原木調達では、国産材はカラマツの引き合いが依然強く、8月中旬からスギの不足感も出ており、全体的にややタイトになる可能性もある。ロシア材は出材が限定的で強含みに変化はない。米材は少し価格は落ちたが、一時的なものと思われる。南洋材は雨季が近づいており、原木の供給不安が懸念される。

8月の国内合板生産量 25.2 万 m^3 のうち針葉樹合板は 23.3 万 m^3 、出荷量は 24.1 万 m^3 となり、2月以降、生産量が出荷量を上回っている。在庫量は 18.4 万 m^3 となり、このうち構造用合板は 15.7 万 m^3 と今年になり毎月増加している。国内針葉樹合板のメーカー出し価格は横ばいだが、9月の極端な安値の影響で販売価格が落ち着く気配は見られない。輸入合板は強含みであるが、価格転嫁にはまだ時間がかかる模様。輸入合板では特に生コンパネの不足感が強い。8月合板輸入量は 23.2 万 m^3 と先月より 1.7 万 m^3 ほど多い。12mm系中心のマレ

ーシアからの入荷は順調。インドネシアからの入荷も平均的な水準となっている。産地マレーシアでは徐々に雨季に変化しつつあり、中板用の物が多く、表裏に使える材が少なく、バランスの悪い在庫状況となっている。インドネシアも雨季が近づいている様子で原木価格も強含みで推移していく可能性が強い。先行き、秋需の気配がなく、引き続き乱売による価格の乱れが続くと思われる。

6. 構造用集成材

国内集成材メーカーのラミナ在庫は多い状態が続いている。買い意欲は低く、ラミナ契約は下げ交渉。円安により日本到着ラミナ価格は横ばい。ラミナのコスト高により国内メーカーにこれ以上の値下げの余地はない。RW 梁桁の販売、荷動きは鈍いものの受注は増加。輸入 RW 平角は 60,000 円/㎡を切るものが流通し始めているが、PC 工場の在庫は潤沢。大手サプライヤーの先物は前値据え置き。欧州ラミナメーカーは中国、米国での需要拡大、欧州域内や中近東、北アフリカでの需要回復により対日向けの値上げ姿勢を強めている。

7. 木材チップ

台風、災害等による林道の崩壊や倒木等の被害により、チップ原木の出材に影響が出ている。解体材も台風による風倒木、建屋の被害木等の発生により入荷量が多い。製紙用、燃料用とも製紙会社、バイオマス発電所等の定期修理が 10 月に集中しているため、チップの使用量が減少している。特に燃料用の余剰感が強いため、受入制限や処理費の値上げ等の動きの出ている地区もある。

8. 市売問屋

小径木の原木不足のためか、スギ 9.0cm 角、3m・4mの入荷が少ない。スギ KD 材母屋角(1等)は強気である。外材構造材の荷動きは悪い。造作材はスギ、ヒノキとも少量しか動かない。外材も同様だが、SP 良材が無いとの声が聞かれる。記念市に期待をかけているが、国産材、外材の値上げに反応しない材木店が多い。

9. 小売

国産材構造材は各地の災害の影響は出ていなく保合いだが、スギ、ヒノキ母屋角は相変わらず引き合いが強い。米ツガ割物の一部に品薄感があり価格も強含み。集成フリー板は入荷量、価格、引き合いとも安定。輸入合板は全体的に落ち着いているが、国産針葉樹合板は弱保合いが続いていたが、各地の災害により保合いになった。プレカット工場の受注は分譲系中心に堅調であるが、盛り上がりには欠ける状況である。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	↘	↗
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↗	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↘
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	↘
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
		メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→	
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
東京・問屋店頭 渡し価格		同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	↗
			アカマツ (KD) 16×40上級	↗
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→